

◆経済倶楽部講演会第4121回（6月26日）

2015年、16年展望

—日本経済、どう動く！—

三菱UFJモルガン・スタンレー証券チーフエコノミスト

佐治 信行

- *様々な課題を抱える日本経済
- *金融収縮の瀬戸際にある中国
- *金融緩和はデフレ要因
- *日本のモノ作りはこれでいいのか
- *伸びる人口増加地域の非製造業
- *中国当局も“爆買い”を注視
- *効率化が加速する非製造業
- *BRICSの苦境と世界の金融情勢
- *中国とドイツが手を組む？
- *着実に進むEU域内の分業体制



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
今日は、佐治さんに日本経済の今年、来年の展望と課題についてお話をいただきます。（拍手）

佐治 三菱UFJモルガン・スタンレー証券のチーフエコノミストをやっております佐治でございます。この会も毎年呼んでいただけるようになってたいへん感謝している次第でありまして、今回3回目だったと思いますが、年1回、マクロ経済、日本経済の先行きを今日もお話しさせていただきますと思います。

様々な課題を抱える日本経済

日本経済の問題点は数えればきりがありません。いよいよ日本の高齢化という問題も

ありまして、2023年、2024年ぐらいになってまいりますと、団塊の世代の方が75歳を越えられ医療費の国家負担というの、数量も、金額も大きく増えてまいります。また、これまでの退職金も含めた貯蓄というのはだんだん取り崩されてくるということになります。

また、銀行の預金というの、そこから伸び悩んできて、銀行が個人から預かったおカネで国債を買う仕組みも難しくなりますので、2023年までに日本で税金が増えるか、給料が増えるか、GDPがまずは増えるという施策を今の段階で仕組んでおかないといけない。そうしないと、日本の将来には極めて暗雲が垂れ込めてきていると思うわけがあります。

だから、2025年以降は、明治の御維新以